

まっ

まっ ていさうはにが手だ

衣帯と上官歌でまっありやたこたあ

歌の店場と「ジャウと」のまっのまっありせ

場所本身の いろん人本 毛こび相手をまっ

ていさ 毛の人連か一人へう二人へり 自分

たけたをってしそっは

勝けをじつと異の もう二勝切まっていさ

デックをし正ら 今去かた と抑まんの声

まっあ

竹芝織袴でかっての夫をまっはことがまっ

夫付うくゝれくの甲 ぼしけで竹芝織袴へ

来る 踏突 一勝切まっても来る

所がふって来る おさは有り ぶふゆれど

有り 雨をうろけしく思つた

~~三勝切のまっのまっのまっのまっのまっ~~

今回9まっは 二9二つとけちがまっ

あとのまっのまっだ

午糸丸腰、午糸三味 一目に二度へんば

がまっ

信平の御意 おむつりおえが主守

此書に

手つても来命に

とあると私の生活はなしに原

と在んおち込んた生活におも

目の茶がくらく原

今アマ平じヤが おれこれ方箋を居え

これといふ それを寄

どん原は少い じりつても もう寄りの

おこせありだ りやだ

今アマ平じヤがハルパーの会社をいつて

これに その会社との契約があり ハルパー

が素のつは五山から

おけりまうだ

2021  
4/17